

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

三ツ目通り－2



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」と歩いてきました。

今回は「三ツ目通り」を歩いています。三ツ目通りは江東区湾岸道路の辰巳交差点を起点に、墨田区向島の言問橋東交差点（水戸街道と合流）に至る延長約8kmの道です。写真右上は三ツ目通りの道路名標識（都道319号線）です。三ツ目通りの名は豎川にかかった隅田川から数えて三つ目の三之橋（別名 三ツ目橋）に由来します。三ツ目通りは、隅田川につながる川・運河にかかる橋を渡り、沿道の公園を通過して都心へ向かいます。前回は起点の辰巳交差点から末広橋まで歩きました。

今回は末広橋から終点の言問橋東交差点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[末広橋]

江東区平野三丁目

最寄駅

東京メトロ東西線

木場駅

「末広橋」（写真下左）は仙台堀川にかかる橋です。写真下右は末広橋から見たもので、深川方面です。地名の「平野」は名主 平野甚四郎長久の姓をとったとのことで「平野寅次郎」とは縁もゆかりもありません。



[白河三丁目交差点]

江東区白河三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

白河三丁目交差点（写真下右）で清洲橋通り（都道 474 号線）と交差します。左へ行くと清澄白河駅・清洲橋方面、右へ行くと扇橋・東砂方面です。地名の白河は陸奥白河藩主出身で老中 松平定信に因んで町名がつけられました。松平定信の墓所はこの地の靈巖寺にあります。寅さん歩 41 健康ご利益めぐりー6 江東区ー1 をご覧ください。



[大富橋]

江東区白河三丁目 最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

「小名木川」にかかる「大富橋」（写真下左）です。小名木川は江戸時代初期に徳川家康が小名木四郎兵衛に命じて開削させた隅田川と旧中川を結ぶ運河で現在の千葉県行徳から江戸への塩の道でした。写真下右は橋の左側で高橋・万年橋方面です。



[森下五丁目交差点] 江東区森下五丁目

最寄駅 都営地下鉄新宿線 菊川駅

地名の「森下」は江戸初期に深い森があり、森の下のようなので森下と呼ばれたとのこと。森下五丁目交差点（写真下左）を左へ行くと高橋夜店通り・深川芭蕉通りとなります。



松尾芭蕉は奥の細道の旅立ち前にこの近くに住んでいた「芭蕉庵」を引き払っています。仙台堀川にかかる海辺橋のたもとの杉山杉風の庵室「採茶庵」にしばらく住み門人と別れを惜しんで奥州に向かっています。

次の菊川三丁目交差点から墨田区に入ります。

[菊川駅前交差点] 墨田区菊川二丁目

最寄駅 都営地下鉄新宿線 菊川駅



菊川駅前交差点（写真上右）で新大橋通り（都道 50 号線）と交差します。
左へ行くと新大橋方面、右へ行くと大島方面です。

〔元徳稲荷神社〕 墨田区立川三丁目



最寄駅 都営地下鉄新宿線 菊川駅

三之橋手前左に「元徳稲荷神社」（写真左）があり、説明板を読むと「三河武士の河村徳右衛門が徳川家康の江戸入府で江戸に移り、屋敷神も邸内に移設した。二代目徳右衛門の妻の腫物の治癒にご利益があり、評判になり一般に開放した。元徳右衛門の邸内にあった稲荷なので

「元徳稲荷神社」と呼ばれた。歌舞伎役者 九代目市川團十郎の腫物治癒にもご利益があったとの記録がある」と記載。

〔三之橋〕 墨田区立川三丁目 最寄駅 都営地下鉄新宿線 菊川駅

三ツ目通りの名となった「堅川」にかかる「三之橋（三ツ目橋）」（写真下左）です。隅田川から数えて三ツ目の橋で三之橋と呼ばれました。堅川は江戸城に向かって縦（東西）に流れることからその名がついた人工河川（運河）です。町名も堅川に因み、「堅川町」と称しましたが、1966 年（昭和 41 年）の住所の表示制度の実施で「堅」の字が当用漢字にないことから「立川町」と改称したそうです。



[緑三丁目交差点] 墨田区緑町三丁目 最寄駅 JR総武線 両国駅

緑三丁目交差点（写真下右）で京葉道路（国道14号線）と交差します。左へ行くと浅草橋方面、右へ行くと亀戸方面です。



[石原三丁目交差点] 墨田区石原三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 両国駅

総武線のガードをくぐり亀沢四丁目交差点を過ぎると、石原三丁目交差点です。



石原三丁目交差点（写真上右）で蔵前橋通り（都道315号線）と交差します。左へ行くと蔵前橋・蔵前方面、右へ行くと亀戸・平井大橋方面です。

[本所三丁目交差点] 墨田区本所三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 蔵前駅

本所三丁目交差点手前辺りから右側に東京スカイツリー（写真下左）が見え始めました。本所三丁目交差点（写真下右）で春日通り（都道 453 号線）と交差します。左へ行くと厩橋・御徒町方面、右へ行くと横川方面です。



[吾妻橋交番前交差点]

墨田区吾妻橋二丁目

最寄駅 都営地下鉄浅草線 本所吾妻橋駅

吾妻橋交番前交差点（写真下右）で浅草通り（都道 453 号線）と交差します。左へ行くと清澄通りで駒形橋方面、右へ行くと押上方面です。



[源森橋]

墨田区吾妻橋二丁目

最寄駅 都営地下鉄浅草線 本所吾妻橋駅

「源森橋」（写真下左）は「北十間川」にかかる橋です。写真下右は源森橋から左側（隅田川・浅草方面）を見ました。上の線路は東武スカイツリーライン（伊勢崎線）で左が浅草駅へ、右はとうきょうスカイツリー駅へ向かいます。



[墨田公園] 墨田区向島一丁目

最寄駅 東武スカイツリーライン とうきょうスカイツリー駅。

源森橋を渡ると、左側は「墨田公園」の入口（写真下左）です。墨田公園は隅田川沿いの台東区と墨田区にまたがって位置し、1923年（大正12年）の関東大震災により壊滅的な被害を被った東京の帝都復興事業の一環として後藤新平の主導で企画・整備された公園です。園内には約700本の桜が植えられています。約1kmの兩岸の桜並木は八代将軍徳川吉宗のはからいで植えられています。寅さん歩 46 東京の桜 2014—1 及び寅さん歩 473 東京の桜 2023—2 をご覧ください。江戸時代徳川御三家の水戸家の下屋敷「小梅御殿」の碑がありました（写真下右）。



園内にある「牛嶋神社」（写真下左）も復興事業に伴う区画整理で向島五丁目から当地に遷座しました。「撫で牛」（写真下右）は健康願望の多くの人に撫でられて光っていました。寅さん歩 51 健康ご利益めぐり—1 3 墨田区—2 をご覧ください。



[言問橋東交差点] 墨田区向島一丁目 最寄駅 浅草駅

言問橋東交差点（写真下右）が三ツ目通りの終点です。言問橋を渡って左から来る国道6号線は水戸通りと通称名を変えて、東向島方面へ向かいます。



久しぶりに都心に向かって歩きました。多くの運河と橋を知り、地名の由来の勉強もできました。また東京スカイツリーがどんどん近づく光景は歩きがありました。帰り道は歩いてこなかった三ツ目通りの左側を歩きました。道路が広いので右側を歩いていた時には気づかなかった「荻野吟子開業の地」の説明板を見つけました。

[こぼれ話 日本女医第一号 荻野吟子開業の地]

源森橋の手前左側に日本女医第一号の荻野吟子が開業した「荻野医院跡」（写真下左）の説明板です。「荻野吟子(1851～1913)が医師を志したのは一回目の結婚後のことで、自身の病氣療養中に女医の必要性を痛感したのがきっかけです。

東京女子師範（現在のお茶の水女子大学）を卒業後、私立「医学校」に入学。女子であることを理由に二度にわたり試験願書を却下されながら、あきらめず、明治18年3月（35歳）ついに医業開業試験に合格。文京区湯島に産婦人科医院を開業。再婚後は理想郷建設を目指して北海道に渡り、苦労を重ねました。明治41年12月（58歳）閑静な土地を求めて、この地で開業しました」と記載。写真下右は源森橋から東京スカイツリーを眺めました。川沿いには散歩道が出来ています。



[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、現在はバーチャルウォーク 松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。

全行程約600里(約2400km)の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。

2022年4月26日、江戸深川(現在の江東区深川)を出発、2023年5月3日小松(現在の石川県小松市)(江戸深川から1784km)に到着しました。

八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

多数の金沢の門人に送られて金沢を後にし、金沢の俳人北枝(北史)の案内で小松におもむき、小松の多太神社に参拝した。ここには実盛の形見の兜と錦の切れがある。実盛が源氏に属していた時、義朝公から下賜されたものとか。・・・木曾義仲が戦勝祈願の書状と一緒に奉納したということや、樋口の次郎がその使者を勤めたことなどが、神社の縁起にしめされている。

「むざんやな 甲の下の きりぎりす」

(注釈：かつて樋口の次郎は、実盛の墨に染めた白髪首を検分して、「あなむざんやな」と落涙したよしだが、今日の前に実盛の着用した甲を見れば樋口と同じく、なんと痛ましいことという嘆声を発さずにはおれない。その甲の下辺りでは、実盛の運命を悲しむかのように、きりぎりすがはかない声を立てて秋を鳴いている)

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

平野 寅次郎 拝